

重度重複障害のある児童の意図的な表出を引き出す取り組み

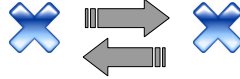
—児童、教材、教師による三項的なやりとりと読み取りシートの活用を通して—

特別支援教育班 福田 さとみ（特別支援学校教諭）

【主題設定の理由】



心地よいなあ。
ちょっと嫌だなあ。
もっとやりたいなあ。



やりとりが
成立しない。



うれしいのかな？
嫌なのかな？
どんな気持ちでいるのかな？

- ・表情の変化、身体のわずかな動きなどによる表出で懸命に気持ちを表現している。
- ・気持ちの表現の段階にとどまっている。

- ・児童の表出に気付けない。
- ・児童の気持ちを読み取ることができない。

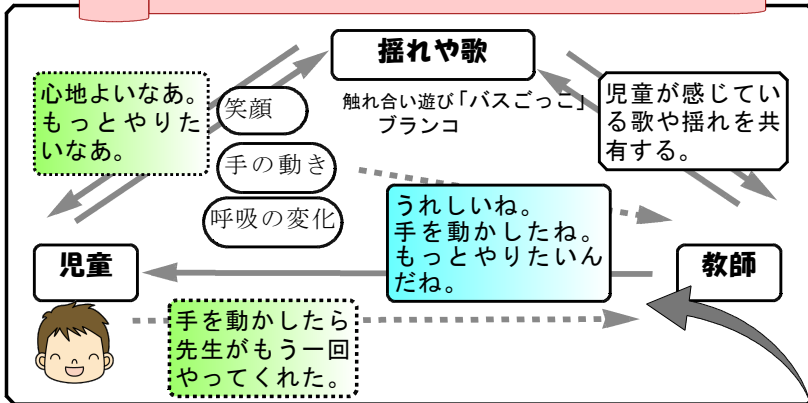
そこで…

○児童にとって状況が分かりやすく、気持ちを表現しやすい場面でやりとりを試みよう。

○読み取りシートを活用して、複数の教師の目で児童とのやりとりを見直してみよう。

【実践の概要】

手だて1 揺れ遊び教材を活用したやりとり



読み取りシートの活用

ビデオ撮影したやりとりの場面を複数の教師が見て、児童の表出とそこから読み取った児童の気持ち、かかわりの改善点を記述する。

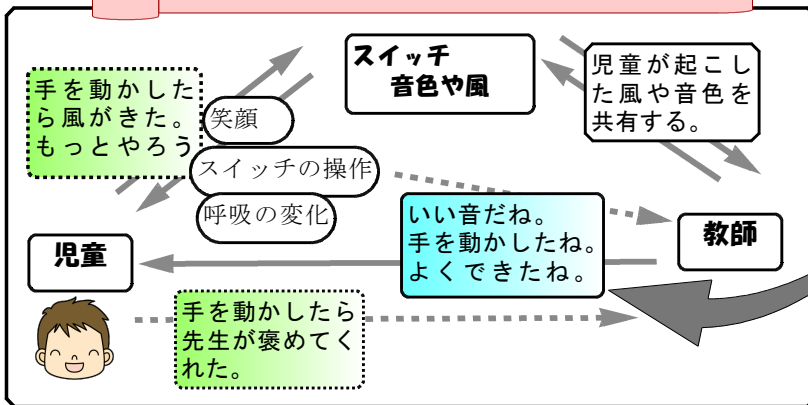
○児童の表出をどのように読み取ったか

- ・手を動かす前に頭を動かしたり、呼吸を荒くしたりしているのも、やりたい気持ちの表れではないかと読み取れる。
- ・揺れが止まったときに、教師の方を向くのは教師がいる方を意識しているのかも

○教師の働きかけの改善点

- ・手の動きだけにこだわらず、全身の表出に着目し、気持ちを読み取ってあげるとよい。
- ・次回は児童の反対側に位置してみると、顔を向けることの意味が確認できるのではないかと。

手だて2 操作する教材を活用したやりとり



読み取りシートの一部

他の教師からの意見をもとに教師の読み取りやかかわりが適切であったかを分析し、やりとりの改善につなげる。



【成果と課題】

【成果】

- ・児童が手の動きなど、自分の表出の意味に気付き、もっとやりたいときに、意図的に手を動かして、教師に伝えようとする姿勢が見られるようになった。
- ・教師が児童の表出から気持ちを読み取り、やりとりへとつなげる力を付けることができた。

【課題】

- ・身体の緊張や呼吸状態など、気持ちの表現の土台となる部分を育てることに併せて取り組む必要がある。
- ・他の場面での表出の広がりや、より相手に伝わりやすい手段を考えていくことが必要である。